

雜 錄

帝國學士院の Proceedings of Imperial Academy of Sciences 出版計畫

拜啓本邦に於ける學術的業績を普く且速に世の學界に紹介することの必要なるに鑑み今般本院に於て別紙趣意書の計畫を立て之れが實行に着手中に有之候而して我學界の各方面が右計畫に賛同し之れを利用せらるると否とは之が効果を擧ぐる上に大關係ある次第にも有之候へば何卒御配慮に依り廣く我學界の賛同協力を得度特に御部内其他御關係の學會等に右趣旨の貫徹する様御配慮に預り度此段御依頼迄得貴意候 敬具

大正十四年十月 日

帝國學士院長代理 帝國學士院幹事 櫻 井 錠 二印

本邦に於ける學術的業績を普く且速に世の學界に紹介スル計畫趣意書

本邦に於ける各學會の機關雜誌其の他に依りて世に發表せらるゝ研究の成績にして學術の發達に寄與し人知の増進に貢獻するに足るもの決して少しとせず然るに是等は邦語を以て記述したるもの多きを占むる爲普く歐米の學界に紹介せられざるの憾甚多し斯の如きは知的協力の精神より觀て大に遺憾とする所なるのみならず發見若くは發明に關する優先權を保障する上より考ふるも亦甚だ不利益なるを免れず而して他方各大學の紀要學術研究會議の輯報等は我邦に於ける研究を歐米の學界に紹介するに適當なる機關たるに相違なきも未だ以て足れりと爲すこと能はざるは我學界の切實に感ずる所なりと信ず

茲に於て本院は一の計畫を立て之が實行に着手中にして其の主眼とする所は重要なる研究成績の概要を普く且速に世の學界に紹介するにあり我學界の諸士が此の計畫に賛同して之を利用せられんことを切望する次第なり 同計畫の要點左の如し

- 一、英佛獨語の中一(成るべくは英語)を以て綴りたる研究成績の概要報告又は豫備報告を隨時本院に提出すること
但し提出者が本院會員に非ざる場合には本院會員の紹介を経ること
法科文科經濟科等の人文諸學科に關する報告は場合に依り邦文原稿にて提出するを得ること
- 一、研究成績の詳細を別に演說著述として發表するは當事者の自由たること
- 一、本院に提出する歐文報告は約一千語以内のものにして文意明確文字明瞭なるものたること
邦文原稿は約二千語以内のものにして術語には歐譯を添ふること
- 一、歐文報告は本院出版委員の銓衡を経て本院刊行の Proceedings of The Imperial Academy に登載し廣く之を内外の大學、圖書館、研究所、學會等に寄贈す
- 一、前項の刊行物は八、九兩月を除き毎月一回以上之を發行し毎回の頁數約二十五頁の豫定なり

帝國學士院歐文記事編纂出版內規

- 一、帝國學士院は帝國學士院記事 Proceedings of The Imperial Academy を編纂し之を公刊す
- 二、記事には本邦に於て爲されたる科學的研究の概要報告又は豫備報告を登載し尙本院集會の録事會員の傳記等を掲

く

- 三、記事は八・九兩月を除き毎月一回以上不定期に之を發行す。一回の頁數を約二五頁とし一年分を以て一卷とす記事の大きさは紙面縦二六・五糎幅一九・二糎とし印刷面縦一八糎幅一二糎とす
本文の活字は「スモール・バイカ」とし一頁の行數は三九行とす

四、印刷指針

- (1) 記事には先づ本院集會の録事會員の傳記等を掲げ次に學術報告を登載す
- (2) 報告の表題、著者の姓名、學位等は次の順序様式に依る
 - (イ) 報告の表題 字體は「ゴシック」の「イタリックス」とし最後に句點(・)を附す
 - (ロ) 著者の姓名 姓名は節略することなく其の全部を記載し且必ず名を先にし姓を後にす。字體は「ゴシック」とし姓の全部と名の首字とは大文字とす
 - (ハ) 學位 學位の記載は著者の任意とす。略字を用ふるも可なり
 - (ニ) 官職名 著者の官職名又は學界に於ける地位等は成る可く之を記載し最後に句點を附す
 - (ホ) 受理の年月日又は紹介者の姓名及受理の年月日を括弧内に記す。紹介者の名は略字を用ふるも可なり

例

The Degradation of Gamma Ray Energy By Masao YAMADA, Rig. H., Professor of Physics, Tokyo Imperial University. (Communicated by Dr. A. Tanaka. Received Oct. 12, 1925.)

- (3) 脚註は肩に小さく半括弧に入れたるアラビア數字を以て之を示す

例 1) 2) 3)

- (4) 本文中に引用せられたる人名は名を先にし姓を後にす但名は適宜之を節略又は省略することを妨げず
- (5) 多數の文献を一括して記するときはその著者の姓の A B C 順に依り之を排列す
- (6) 毎巻の終に其の索引 (Index) 扉頁 (Title Page) 及目次 (Contents) を添附す
- (7) 索引は件名人名學名地名等に依り各別に作ることなく凡て之を總括し必要に應し其の字體を異にして區別を明かにす
- (8) 索引中の人名は姓を先にし名を後にし其の間「コンマ」(,)を附す
- (9) 目次の排列は凡て内容の順序に依る

五、寄稿者注意事項

- (1) 原稿の用語は英語佛語又は獨語に限る。但法科文科經濟科等に關する報告にありては場合に依り邦文原稿にて提出することを得此の場合には術語に歐譯を添ふることを要す
- (2) 原稿は本院會員を経て提出すべく又之を記事に登載すると否とは出版委員の意見に依る
- (3) 原稿は約一千語(邦文の場合は約二千語)以内のものたること
- (4) 原稿は成るべく「タイプライタ」を以て認め文意明確なることを要す
- (5) 報告の表題著者の姓名等の書式は前項印刷指針に依ることを要す
- (6) 「ゴシック」「イタリックス」等特殊の字體を要する場合には脚線を用ひて之を示すことを要す(「ゴシック」には波狀線を用ひ「イタリックス」には直線を用ひ「ゴシック」の「イタリックス」には「」を用ふ)
- (7) 挿畫等は直に印刷に附せられ得べきものに限り之を採用す

出版委員添書

拜啓別紙帝國學士院長よりの依頼狀有之候通り今般同院に於て毎月一回以上 Proceeding を發行し本邦學術的業績

を迅速に世界に紹介せられ候之に對する各専門家の賛意盛なるを以て今後は數學、星學、物理學、化學、地球物理學、地質學、生物學、醫學、農學及工學並法文經の諸科に亘りて多々報告せらるゝこと、存候

工學關係に於ては從來各所に於て重要な調査研究を遂げられ或は大に世界に發表すべきもの多々有之候此際前陳の機關を通して之を公にするは本邦工學専門家の學術上の價值を表示すべき一助共相成可申候迂生今同學士院工學關係の出版委員に擧げられ夙に意を爰に致居申候奮て御寄稿相成度此段得貴意申候 敬具

大正十四年十月二十八日

出版委員 俵 國 一

日本鐵鋼協會々長 河 村 曉殿

追て御寄稿は小生宛或は直接帝國學士院宛(東京上野公園内)御送附被下度候

第三回全國工業家大會決議

謹啓益々御健勝大慶至極に奉存候俦工政會主催の下に全國四十三工業團體の協賛を得て十月十六、十七、十八の三日間東京市に於て第三回全國工業家大會を開催し全國各地より約一千名の代表的工業家會合し動力、國產獎勵、工業教育の三問題に付慎重審議せる結果左の如く決議致し候是等三問題は現今工業に關し最も緊急實行を要する國家的重要問題と確信致候に就ては是非御賛成の上本決議の趣旨達成に御援助被成下度御依頼迄得貴意申候 敬白

大正十四年十月二十五日

社團法人工政會理事長工學博士 加 茂 正 雄

決 議

動力問題に關する決議

- 一 吾人は政府が速に權威ある動力調査委員會を組織し以て送電幹線網の完成を促進し動力資源活用の完璧を期すると共に各種資源の開発上遺利なからしむるの方策を確立せんことを望む

國產獎勵に關する決議

- 一 吾人は政府が權威ある中央機關を設け各官公衙及び公共團體等を督勵して國產獎勵の目的を達成せんがために速に適切なる處置を採らんことを望む
- 二 吾人は全國の産業及び經濟に關する公益團體相提携聯絡して國產獎勵に關する一大機關を作り政府と協力して其目的を貫徹せんことを期す

工業教育に關する決議

- 一 吾人は工業教育を普及發達せしめ殊に工業補習教育の改善を計り之を擴張充實するを以て急務と認む
- 二 吾人は官民協同して優良なる職工長養成の途を講じ其の待遇を改善せんことを期す
- 三 吾人は工業に關する社會教育施設例へば工業圖書館、工業博物館等の普及發達を望む

附 帶 決 議

- 一 本決議の實行に關しては之を社團法人工政會に一任す

大正十四年十月十八日

第三回全國工業家大會

造船協會役員改選 同會去る 11 月 1 日臨時總會を開き役員の改選を行へり其の當選せる主なる役員次の如し 理事(會長)今岡純一郎君 理事(主事)山本幸男君 理事(主計)斯波孝四郎君 理事(編輯主任)山本武藏君 理事斯波忠三郎君等なり。

獨逸の銑鐵及鋼鐵業狀況 獨逸銑及鋼鐵業組合(在柏林)最近の發表に依れば 1919 年乃至 1924 年獨逸(關稅區域内)の銑及鋼鐵製産高は 1913 年に比し左の如し。(單位噸)

年	銑鐵	鋼材	年	銑鐵	鋼材
1913	16,761,311	17,598,826	1923	4,936,240	6,305,259
1919	6,283,873	7,874,356	1924	7,812,231	9,835,255
1920	7,043,617	9,277,882			
1921	7,845,346	9,996,538			
1922	9,395,670	11,714,302			

尤も右表中 1913年の製産高は割讓地域をも含むが故に帝國統計局の調査に依り假に右割讓地域(即ちエルザスロートリンゲン東上シュレージエン及ザール流域)を除けば 1913年の製産高は銑鐵10,916,000噸鐵材 11,775,000噸となる(尙ほ茲に注意すべきはベルサイユ條約の結果獨逸製鐵業がロートリンゲン及ルクサンプルグの供給絶えたる爲め古鐵より鋼鐵を製する率殖加し之を戦前の 1913年に假に80萬噸とせば戦後は平均 200萬噸となり居れり)自 1924年 1月至 1925年 8月銑及鋼鐵の毎月製産高並現存及營業中の熔鑛爐左の如し。(單位噸)

年月	銑鐵	熔鑛爐 現存數	同作業中 のもの	鋼材	年月	銑鐵	熔鑛爐 現存數	同作業中 のもの	鋼材
1924, 1	377,838	218	80	468,923	11	786,019	215	101	968,617
2	491,996	217	86	622,859	12	872,971	215	106	1,049,195
3	649,103	217	98	843,743	1925, 1	909,848	215	113	1,180,908
4	698,392	217	107	943,000	2	873,319	214	120	1,155,315
5	519,979	217	94	670,362	3	990,606	212	122	1,209,294
6	559,543	216	102	723,034	4	896,362	212	119	1,064,420
7	719,293	216	99	912,623	5	960,541	212	120	1,114,746
8	681,160	216	90	808,874	6	941,201	212	119	1,108,748
9	696,744	216	90	866,409	7	885,880	211	108	1,030,983
10	759,193	215	96	937,611	8	765,901	211	101	899,421

上表の示す如く戦後は 1922年最好成績を示し次の 1923年はルール占領に依つて不景氣の最低度に達し即ち 1922年の製産高は 1923年(占領地帯を含む)に比し銑鐵 5割 6分鐵材 6割 7分なるに反し次の 1923年は右 2割 9分乃至 3割 5分に激減したり又 1924年は馬克貨の安定を得たる年にて前表に示す如く殊に同年秋以降本年に入りても順調に進みつつあり 1925年 3月は戦前(割讓地域を含む)の月平均製産高に比し銑鐵 7割 1分鋼材 8割 2分の成績を示し居る然し他方に於て内外國市場不景氣の爲需要亦減少し其結果熔鑛爐の運轉減少するの已なきに至りたり而して本年 8月は 1913年の月平均に比し銑鐵 5割 5分鋼材 6割 1分を製産するに過ぎず然し本年全體の製産高は内輪に見積るも最も不景氣なりし 1922年の製産高を下る事なかるべしと觀測され居れり蓋し本年上半期の製産高銑鐵 5,571,878噸 鋼材 6,833,417噸に達し 8月迄の累計銑鐵 7,223,659噸 鋼材 8,763,871噸に達し居ればなり。而して上述する如く獨逸の銑及鋼鐵の製産高は戦後も先づ大體順調にして殊に 1922年 1924年及本年は 1923年(現在の領土のみに付)の製造高に近似しつつあり然るに前述の如く他方に於て現今經濟界の不況あり需要従て少弱なるが爲製鐵業者間の競争を避け又市場の需要に適應せんが爲 1924年 10月獨逸製鐵業者間に組合を組織し其製産高の割合を協定したるが本年 1月の各製鐵業

者の協定製産高割合左の如し。

製産者	噸數	製産者	噸數
Bochumer Verein	493,500	Hoesch	831,318
Gelsenkirchener Bergwerks A./G	109,200	Klockner werke	827,198
Gutehoffnungshutte	1,080,542	Phoenix	1,659,672
Krupp	1,659,672	Thyssen	1,659,672
Rheinische Stahlwerke	987,840	Eisen werk Krast	300,000
Mannesmann	354,879	Menden. und Scherke	79,200
Gusstahl werk witten	397,700	Van der zypen	233,012
Westf. Eisen-und Stahl werke	88,800	Eisenhutte Holstein	63,756
Rombacher hutten werke	241,718	Rheinmetall	87,532
Henschel & Sohn	218,308	Charlottenhutte	180,273
Ilse der hutte	570,074	Bremer Hutte	90,300
Geisweider Eisen werke	150,797	Maximilianshutte	371,209
Friedreichshutte wehbach	84,000	Eisenhüttenwerk thale	104,357
Linke-Hofmann-Lauchhammer	591,431	Oberschlesische Eisen-Industrie	351,565
Borsig werke	103,068	Gusstahlwerke Dohlen	150,000
Oberschlesische Eisen bahn-bedarfs A.G	60,480	Baroper Walzwerke	72,000
Enhsche werke	—	計34社	15,310,045
Deutsch Luxemburg	1,056,972		

即ち前表の如く獨逸製鐵工場製産能力は 1 年 1,500 萬噸に協定されたる譯なり然し本年の製産高は去 8 月以來各社製産制限を 3 割 5 分増加したるに拘らず約 1,200 萬噸位の見當なり。(十月十六日 附在漢堡川島總領事報告)

故海軍大技監 大河平才藏氏島根縣諸製鐵場巡回誌の一部

向 井 哲 吉

追憶すれば四十有餘年前明治十六年に先日舉行せられたる本協會の第十週年紀念大會に於て故製鐵功勞者として追悼せられたる故海軍大技監大河平才藏氏(其當時海軍一等師)が官命により島根縣下鐵業調査に出張せられたることあり其調査の結果は永年間海軍に於て兵器製造用鋼鐵の原料に供用せらるることとなり尙ほ第二回の帝國議會に海軍より提出せられたる製鋼所設立案の一因を爲したるやに聞きしことあり當時予も其出張に隨行を命ぜられ時の海軍卿川村純義閣下に呈出せられたる復命報告書原稿を藏せしもの偶然にも篋底より現はれ懷舊の情に堪へず聊か當時の状況を覗ふに足らんかと存じ次に記述することとせり但し残念なることには其復命報告に附着しをりし諸表並に鐵業者の盛衰履歴製鐵並に製鐵の方法等を集録せる別紙は逸散して見當たらざることなり。

島根縣諸製鐵場巡回誌

緒 言

明治十六年十月七日鄙官不肖を顧みず島根縣下諸製鐵場産鐵高及び素質の調査巡回の榮命を辱ふし同しく十日横港を出帆し海陸五日を経て島根縣松江に着し翌十六日直に縣廳に出頭し縣令書記官及び

勸業課長の各官に鄙官等今般來縣の意を述べ是より調査す可き地方の順序を定め該縣官、間宮八等屬の嚮導を以て松江を辭して實地に入り山岳川谷を冒し雲石の間跋渉する凡そ一百餘里日數三十有餘日にして其實地製鍊を巡視すること實に二十四箇所之多きに及び此間重要にして最も注意すべきものは其製鍊の機會により深更に至るあり或は未明より場内に入り現に製法の如何を見ざるを得ざるあり或は亦數種の製鐵を集め實際の試験を施行し其品評を定め好機を得ては製鍊者等に歐洲製鍊法の大略を説き圖を示し形容を致し百方巡回の趣意に背かざらんことを勉むと雖ども鄙官短才淺學にして擔當の重任を盡す能はず實に汗顔恐縮に堪へざるなり然れども巡廻中聊か其實地を目撃し方今雲石製鐵の景況毎歲出の高、製鐵業者創立以降の盛衰爾來製鍊の方法其他向來の維持法を述べ之を左に上陳し以て這回鄙官島根縣下諸製鐵場巡回調査の復命書と爲し以て他日の參考に供する而耳。

海軍一等師 大河平才藏

島根縣下製鐵場巡廻復命書

夫れ島根縣下製鐵の事業たるや擧げて民有にして其盛なるもの雲州に於て四名あり石州に於て十四名あり合して十八名は縣下百三十八名の鐵業者中最も著名なるものなり、(但し毎年製出の鐵量は別紙一覽表に詳かなり)(一覽表缺)今其履歷を尋ぬるに三百或は二百年前に創業し各々其業を子孫に傳へ今日に至り莫大の山田を所有し數千の配下ありて彼を仰ぐこと恰も君主の如く皆其門に出入して糊口す然り而して其製鐵に従事するものの如きも亦主事より職工に至るまで悉く配下ならざるはなし故に彼輩は結髮の僮爺にして製鐵法の理由を解せざるが故に改正を加へて以て技術の進歩を計るに由なく愈々年月を経れば、愈々其法古くして實に島根縣下に於て今日神代の製鐵場ありと云ふも決して誣言にあらざるなり偶ま製鍊火床等の如何に關し惡質の鐵を製出することあらば直ちに神變鬼怒の怪事に托し餅鹽等を備へて以て工場を清淨にし又更に他事あるを知らず實に吐飯抱腹に堪へずと雖ども亦其愚蒙なる愍然と云ふ可きなり。

鐵業者創業以降の盛衰履歷製鐵並に製鐵の方法及び製鐵に關するの諸件は網羅して以て之を別紙(別紙缺)に開申するが故に茲に省略す。

抑も別紙(別紙缺)製鐵高一覽表に記載する如く明治十一年前後に於ては縣下一般の鐵業者は其賣買頗ぶる盛にして隨つて利潤も尠なしとせず然るに漸く十三四年に移り遽かに鐵業者の頭上に一大困難を來たせり是れ何に依つて其困難を惹起せしものなるや其根由するところ固より數種ある可しと雖ども今之れが大なるものを擧言せん三つあり第一物價下落第二輸入鐵の繁昌第三姦商輩一獲千金の策略を逞ふし東京、神戸等の製作所に於て和洋鐵屑を買求し之を大阪地方に集め極めて粗略の方法を以て再び右鐵屑を雲石木炭鐵の外裝に鍛鍊摸擬し其名を盗んで以て其厚利を占むるものあり以上三件は乃ち明かに島根縣下鐵業者の商敵なり而して第一第三の如き皆之れ一時の患害にして敢て深く杞憂するに足らずと雖ども獨り第二に至つては唯商法上の計策を以てす可からず畢竟之れ技術上の優劣より起生するところなり彼れ百金を以て製し得可きものは吾之れに千金を耗費せざれば能はず乃ち之れ技

術の及ばざる所にして隨て其價額も亦相比較するを得ず、輸入鐵の廉にして盛昌を致し本邦産鐵の不廉にして衰微を來たす勢止むを得ざる所なり斯の如き危急の場合なるも山間僻地の製鐵者は其如何を考究する能はず愁然として活潑に事業を取るものなく到るところ休業一般の形勢なり雲州に於て有名なる田部長右工門(地價十五萬圓餘を有す)の如きも現に營業の方法に究迫す、當時の景況を以て視るときは向來數年を出でずして幾千の鐵業者は各其職を失ひ路頭に立て其食を求めんとするが如き慘狀を來たすも亦知る可らず、嗚呼官鑛釜石の製鐵場は已に廢業に屬し今復た將に島根縣下製鐵事業は地を拂はんとす、本年一月以來續々廢業を縣廳に届出する者既に十有餘名に及ぶと云ふ故に縣官も亦茲に久しく配慮する所ありと雖ども如何とも其良策なきに苦しむもの如し、今若し政府速かに之を救護するの適法を設けず長く不問に置くときは恐らくは本邦全國産鐵の地は渾べて消滅に屬し兵器は勿論苟くも鐵と名稱する所の器具は皆悉く歐米各國の輸入を仰ぐに至らんか、果して然らば其弊害の及ぶ所必ず些少に止らず海外の姦商は立どころに非常の鐵價を上げ彼れ若し鐵賣上の全權を握りて動かざるときは一個百圓の甲鐵彈も之が爲に或は二百圓に増價するも亦計り知る可らず家具の如き鐵器は其價の不廉なるときは購求せざるも可なり建築に要する鐵棒は之れに換ふるに木材を以てするも亦可なり、然れども獨り兵器の如きに至つては其廉不廉を語るに違あらず實に必需のものにして一朝事あるに望んで之を外國に仰がんと欲せば其費用數百萬金を要すべきや巨額なる必せり矣、たとひ當製鋼所(註當製鋼所とは東京築地にありし海軍兵器局製鋼所を云ふ)の如き現今購求する所の鐵地(當時中國産鐵を原料と爲せり)は缺乏の憂なきも年々歳々産鐵の減滅するに至らば其價格は益々騰貴し製鍊は愈々兪略に流るゝ之れ勢の然らざるを得ざるところなり斯の如き場合に際會するあらば當所製出の鋼地は漸々輸入鋼地の價格に倍蕪し終に損益相償はず當所を維持するの目的も到底水泡に屬するに至らんか然れども政府將來の計策は鄙官等の敢て伺ひ知る所にあらずと雖も今此困難を未萌に防ぎ本邦支用の鐵製兵器の類は其輸入の一部を防がんとを豫め計畫せんと欲せば既に前條に上申せし如き頑愚なる山間の鐵業者に依頼因憑して以て其功を奏せんとを決して望むべからざるの事實なり、故に鄙官は敢て愚慮を顧みず本邦古來の製鐵法を改良し以て其恢復を謀るの策を上申するところあらんとす。

本邦製鐵の事業たるや固より之を歐米に競争する能はざる已に鑛山と地勢の自然に示す所なり、然れども是を以て内國一般の需要に應じ輸入鐵の一部を防ぐに足るは別紙一覽表及び其實地製鐵場を目撃して諒然たり然るに輸入鐵の日に盛昌を極め本邦産鐵の月に衰頽を致す所以のものは何に因縁して然るか他なし唯本邦製鍊法の宜しきを得ると得ざるとにあるのみ、故に之を改良するに因襲の方法を維持して之に洋法を折衷し譬へば人力を要すべき扇風器の如きは之を水力に換へ粘土を以て構造するの鑛鑪は之を廢して煉化石を用ゐ或は砂鐵精灌法等の如きに當路の技術者、精神を悉くし自ら山間に入り其實地を踏み徐々に其歩を進め改良を劃するあらば必らず因循姑息の頑愚を破り其製煉上の適法を得其走費を減するに至るべし其徒費を減省すれば則ち廉價を以て賣買し得る之れ自然の理なり。

斯の如くにして其産鐵價ひ廉なるに至らば神港坂地の如き水陸運輸の便を得るの地を撰み公立の製鐵所を設立し茲に適當の機械（釜石に裝置の諸廢物機械を採用するを得べし）を据へ右の鐵地を悉く該所に購集し洋式に倣ふて製煉せば年々巨額の鐵地を要すべし然れば島根縣地方の鐵業者は其販賣の流通を得將に爐場を閉ちて路頭に立たんとするの鐵業者も亦之が爲再び事業を執り生計を得るの盛運に歸るは疑を入れざるなり然れども此計畫たるや輸入鐵の一部分を防ぐに出るが故に其製出するところの鐵類は必ずしも洋鐵の價額を超過す可らず譬へば洋鐵一貫目の値二十錢なるときは本邦産出鐵は是より廉ならざるを得ず、之れ果して廉なるや否やは別に精算を立るにあらざれば斷言する能はずと雖ども既に廣島縣下製鐵價額の報告によれば現今の製法を以て製鍊せしもの一貫目の鍊鐵價額僅に十錢を出でず之に改良を加へば又其幾分を減するや言を待たず既に一貫目の鍊鐵七八錢の價格を以て買求することを得ば前陳の計畫を實際に施行する蓋し難きにあらざるべし後日尙ほ該事に關する精算を要するの日あらば鄙官は直ちに其調査を爲し別に一書を認めて以て上申せんと欲す之れ鄙官の敢て伏望するところなり。

以上開述する所のものは唯即今島根縣下諸製鐵場の景況並に向來製鐵法の改良等其概略を陳する所のもにして尙ほ各所に於て見聞采輯する所は別紙（別紙缺）に具録し以て閱覽に呈す鄙官不文其意を盡さず極めて糺繆多きを知る請ふ幸ひに裁擇を賜はらんことを謹言。

明治十六年十二月

海軍一等師 大河平 才藏

海軍卿 川村 純 義 殿

製鐵政策懇談 片岡商相は七日午前十時下二番町の商相官邸に中井製鐵所長官、柵瀬、四條の兩次官、野村參與官、三井鑛山局長、並に過般の製鐵鋼調査會の民間委員たりし澁澤榮一、大河内正敏の兩子、中村雄次郎、郷誠之助の兩男、團琢磨、木村久壽彌太の各氏を招き先づ商相から製鐵鋼の國策樹立は現内閣成立以來の方針とする處であり本年一月高橋是清氏が農商務大臣時代に製鐵鋼調査會が設けられ諸君の御勵精を仰いだ次第であるが、其の決議に基く答申は不肖就任以來の指針として研鑽劣る處なく、先般八幡製鐵所の視察に際しても大に参考とした處であつて諸君の勞に對しては深く感謝するものである、今後政府として採るべき方策に就いては先般閣議に於て大體報告した通りであるが尙ほ諸君の意見を徵する事の緊切なるを思ひ今日の會合を設けた次第である。との挨拶あり次いで民間側より各種の質問あり片岡商相並に中井製鐵所長官主として答辯する處あつたが要は、

- 一、製鐵鋼調査會の答申の精神を含んで資本合同に基く製鐵業振興策は一時打切として關稅引上を條件として官民協力して進むこと、
- 一、鋼材の共同販賣に就ては民間のみの出資を以て共同販賣所を設け製鐵所としては鋼材の拂下値段を内示するに止めること、
- 一、鋼材拂下値段の内示に就いては内地製造業者の利害のみを顧慮するに止らず進んで輸入業者の

利害をも考慮する必要あるを以て鋼材の種類に關する取捨選擇の要あること、

一、官營製鐵所をして民業壓迫の讒を免れしむるためには其の特別會計を會計法に謂ふ作業會計にあらずして鐵道特別會計の如き制度に改むる必要あること。

等が質疑應答の骨子であり正午過ぎ散會したが此種の會合は更に規模を小なるものとして今後再三行ふ方針であると。

製鐵所會計 制度變更提案 現在の製鐵所會計は作業會計法の適用を受けて居るが其結果として設備擴張費の如き一般會計よりの補給に俟つて居り資金償却に對し民間諸會社のやうな苦痛を嘗める事なしに其經營状態は比較的良好の域にあるが片岡商相は其就任以來製鐵鋼國策樹立に斡旋し先般の閣議に於て一應の意見を開陳してゐるが其意中には製鐵所の會計制度變更を以て當面の解決策と信じつゝあるものゝ如く目下銳意其實現に努めつゝあり元來製鐵所會計が現在の作業會計として取扱はれてゐるのは其創設當初に於ては兎も角として現在の状態は全く矛盾して居り寧ろ製鐵會計の如きは獨立せる特別會計とするのが事業の本質よりして正當のものであるのみならず現に一般會計から補給を受けつゝある擴張費の如きも一半は其益金を以て充當し益金なき場合には借入金に依るものとなるときは製鐵所をして自ら其能率を高むるやう努力せしめる許りでなく一面民間會社に對する特殊的地位を拋棄して所謂民業壓迫の誹りから免れしむる事が當然の歸結であるとなし現はれ來り斯くして商相の企畫する官民共存共榮の實が擧げられる次第である斯くて商相の企畫が近き將來に實現するとせば現在豫算書と共に議會に提出せる受拂ひ勘定書は貸借對照表と損益計算書に分たれる結果其事業成績は頗る明瞭に諒解せらるべく尙近年連續的に益金を計上し得るを以て之れにて現在繼續中の第三期擴張事業を完遂し更に商相が現在畫策しつゝある鋼材四十五萬噸増産計畫が具體化するに至つても製鐵所と民間會社と同一の立場にあつて協力して設備の擴張を實行し得る等の實益を見るに至るのであるが此計畫實現に當つては一方大藏當局の意嚮をも尊重する必要あり、尙ほ相當迂餘曲折を見るであらう。

製鐵所官制改正 十八日勅令を以て製鐵所官制中改正の件を公布即日より施行した内容は專任技師二名專任技手六名の増加である。

八幡鐵材賣上高 八幡製鐵所の先月中鋼材賣上高は官民合せて 57,140 噸にて前月に比し 18,692 噸の増加である、尙ほ明年二月後先物を賣出すこととし目下製作數量を調査中。

鐵力拂下好成绩 八幡製鐵所では 30 日ブリキの隨意契約を締切つたが拂下豫定數量一二、三各級品を通じて 500 噸に對し申込過剩といふ近頃珍らしい現象を呈したが初めての隨意契約とて人氣を呼んだものらしく價格は前回より 8 分高だと。

九月中鐵材輸入高 某社發表によると本年九月中における我國の鐵材輸入高は左の如くである。
(單位トン)

銑鐵 (24,071) 鋼材及屑鐵 (889) 棒鐵及型物 (9,632) ワイヤロッド (3,293) 板鐵 (1,744) 薄鐵板

(8,874) 針金 (2,191 (鍼力 (3,865) 鋼管 (2,279) 軌條 (3,074) 釘 (175) 鍍金板 (79) 合計 (60,166)

九月中重要鑛物産出高 商工省鑛山局の調査に依れば本年九月中における重要鑛物産額は前年同期に比し銅、鐵、硫黄の産額は減少したが、金、銀は各一割以上の増産を示してゐる、これを鑛種別に示せば次の如し。(▲印は減△印は増)

	十四年 九月	前年同期 比較(割)		十四年 九月	前年同期 比較(割)
金 (匁)	177.278	△ 1.53	石 炭(佛噸)	2,028.403	▲ 42
銀 (匁)	2,534.506	△ 1.08	石 油(石)	133.693	△ 82
銅 (斤)	8,936.473	▲ .74	硫 黄(佛噸)	3.817	▲ 1.36
鐵 (佛噸)	5.839	▲ 1.48			

九月末銑鐵の在荷 三菱商事會社の調査によれば九月三十日現在の銑鐵市場在庫數量は左の通りである。(單位トン)

▲銑鐵市場在庫數量

		九月末 トン數	前月 比較			九月末 トン數	前期 比較
東 京		15,390	減 697	長 崎		284	減 120
横 濱		6,560	同 700	大 連		46,688	増 5406
名 古 屋		4,313	同 730	函 館		121	—
大 阪		18,100	同 3,650	釜 石		7,481	増 1107
神 戸		72,770	同	室 蘭		9,837	同 3109
阪 神 間		2,571	減 54	兼 二 浦		18,064	減 1262
門 司		3,441	同 441	合 計		205,620	増 2028

▲持主別數量

生 産 筋	76,511	増 6,054	消 費 筋	97,328	減 2355
問 屋 筋	31,281	減 1,671			

次に在荷を品種別にして見ると左の通りである。(單位トン)

▲品種別數量

		九月末 トン數	前月 比較			九月末 トン數	前月 比較
兼 二 浦		26,697	減 2,775	クリヴランド		260	減 105
釜 石		9,299	増 1,145	ベ ア ン プ		4,730	増 1,480
輪 西		13,714	同 2,018	ベ ン ガ ル		1,900	減 550
漢 陽		1582	減 250	タ タ		32,510	同 150
東 鐵		256	—	ヘ マ タ イ ト		200	同 100
鞍 山		47,914	増 2,868	ス エ ー デ ン		594	同 100
本 溪 湖		46,900	減 1,028	雜		18,984	同 475
イ ノ		80	—				

十月中輸入鋼材 三井物産調査に依れば 10 月中の本邦輸入鐵材は數量 60,450噸價格 7,994,675圓で内譯は左の如くである。(單位噸)

	横濱	神戸	大阪		横濱	神戸	大阪
鉄 鐵	3.751	1.375	5.182	スチールワイヤー	1.121	663	346
鐵 鋼 屑	—	—	2.781	鋳 力 板	2.672	1.355	18
鋼棒及ヒ型物	6.966	1.246	4.092	管 類	1.383	198	280
鋼 板	962	626	81	軌 條	463	1.406	261
薄 板	5.533	7.840	1.124	鍍 金 板	51	—	—
ワイヤーロッド	2.447	5.766	406	釘 (擔)	50	13	1

十月末鉄鐵在庫減少 (三菱商事會社調査) 10月末現在の鉄鐵在庫高は生産筋の持ち高 84,371噸 問屋筋 26,676 噸消費筋 86,353 噸合計 197,400 噸である、これを前月末現在に比較すると 8,220噸の減少を示した、即ち右在庫高を市場別に前月末現在と比較表示せば左の通りである。(單位トン)

市場別	在庫高	前月比較	市場別	在庫高	前月比較
東 京	11.400	減 990	長 崎	319	増 35
横 濱	6.360	同 200	大 連	37.137	減 9.551
名 古 屋	4.623	増 380	函 館	121	—
大 阪	13.600	減 4.500	釜 石	7.466	同 15
神 戸	65.310	同 7.460	室 蘭	19.878	増 10.041
阪 神	2.775	増 201	兼 仁 浦	22.688	同 4.624
門 司	2.653	減 788	合 計	197.400	▲ 8.220

また右鉄鐵在庫高を各種別に前月末現在と比較表示せば左の通りである。(單位トン)

品 種 別	在庫高	前月比較	品 種 別	在庫高	前月比較
兼 仁 浦	29.295	増 2.598	クリヴランド	355	同 95
釜 石	9.304	同 5	ヘマタイト	200	同 200
輪 西	24.699	同 10.985	バ アンズ	2.980	減 1.750
漢 陽	1.312	減 270	ス エ ー デ ン	314	同 250
東 鐵	256	増 256	ベ ン ガ ル	2.170	増 270
鞍 山	29.401	減 8.513	タ タ	25.390	減 7.120
本 溪 湖	44.840	同 2.060	雜	16.774	同 2.210
仙 人	80	増 50	合 計	197.400	8.220

本邦重要鑛物各月産出高比較表

十 四 年	金 千匁	銀 千匁	銅 千斤	鐵 佛噸	石炭 千佛噸	石油 石	礦黃 佛噸
一 月	164	2448	7679	3610	2070	127552	3563
二 月	154	2368	8257	2698	2294	113011	3316
三 月	190	2808	8787	4384	2623	127321	3451
四 月	180	2678	9613	6122	2546	124898	3677
五 月	198	2964	9540	6199	2517	130615	4359
六 月	123	2720	8076	6260	2405	124983	4259
七 月	179	2743	9184	4554	2405	127867	4537
八 月	171	2725	8131	6560	2334	129451	3920
九 月	177	2536	8936	5889	2098	133623	3817
累 計	1606	23390	77203	46565	21291	1139391	34890
十 三 年 同	1479	20975	73712	49204	20281	1124102	33100
十 二 年 同	1555	21891	31376	51971	19534	1228577	25590
十 一 年 同	1429	23524	73109	27524	16462	1229810	25018